

県民の安心の
拠り所となる
病院であること

K o h a r u b i y o r i
VOL. 58

こはるびより

愛媛県立中央病院広報誌「小春日和」



長年当院を支えてきた医師



● 原田副院長

● 前田部長

● 菅院長

● 石田センター長

● 定本センター長

- Index**
- P1 長年当院を支えてきた医師（今年度定年退職者）
 - P2 院長挨拶
 - P3 診療科紹介「呼吸器外科」
 - P4 ドクターズカルテ
疑問を解決！県中 Q & A
 - P5 研修医紹介
 - P6 病院のお仕事 外来化学療法室
 - P7 医療安全管理部だより No.51
転入・転出医師（2022.12.1～2023.3.15）
 - P8 連携医療機関紹介 ～第 29 回～

ご自由にお持ち帰り下さい

【発行】愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地
TEL:089-947-1111 2023年3月15日発行



愛媛県立中央病院

院長挨拶



愛媛県立中央病院 院長 菅 政治

新型コロナウイルス感染症と暮らす日々も丸3年となりました。皆様におかれましてもその間、大変不自由で緊張した生活を過ごされたことと思います。当院も、感染の大きな波が来るたび、救急医療や小児、周産期医療などの守るべき診療機能を維持するとともに、コロナ対応に人的資源を振り向けるため、幾度かの診療制限を行い、そのたびに皆様には多大なご迷惑をおかけいたしました。

また、中予を中心に、多くの医療機関や関係者には、当院の機能維持のために様々な支援をしていただきました。県民の皆様、地域の医療関係者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

ここで、コロナ対応の3年を振り返ってみたいと思います。私が医師となり40年が過ぎましたが、これは初めて経験した世界的な感染爆発（パンデミック）です。当初はウイルスの病原性や対処法など詳細な情報がなく、医療者もこわごわ対応していました。その局面を大きく変えたのはワクチン接種です。日本で主として投与されたmRNA ワクチンの研究開発は30年に及ぶそうですが、今回は1年で実用化され、ファイザー社、モデルナ社から大量に供給され、国が積極的に接種を勧めることで、短期間で全人口の80%以上が2回以上のワクチン接種を済ませました。当初、重症化し、コロナ肺炎などで亡くなる率も高かったのですが、接種が進むにつれて高齢者でも重症化する症例が減り、医療者の患者対応も少し安心して行えるようになりました。一医師としてmRNA ワクチンの短い開発期間や有効性に驚き、一方、ウイルスの変異株の出現の速さ、ワクチンの有効期間の短さなど、この感染症への対応の難しさも感じました。

しかし、ワクチン接種が大きく局面を変えたのは間違いなく、今後もウイルスに対抗する手段の一つとして、うまく使っていきべきだと思います。また、現在、国ではこのウイルスの感染症法上の分類を2類から5類に移行する議論が進んでいます（2023年1月現在）。しかし、この感染症は変わらず社会に存在し、インフルエンザと比べても非常に広がる力が強いウイルスです。3年間の生活様式の変容が一気に戻るのではなく、感染に対する予防や警戒は継続しつつ、徐々に緩和していくことを望んでいます。

次に当院の入院治療や労働環境への取り組みです。国は人口減少、少子高齢化への対応や医療介護にかかる資源の有効利用を目的として、地域での診療機能（役割分担）の調整を進めています。当院のような急性期病院は、多職種によるチーム医療を活用するほか、良質な医療の提供と地域の病院、診療所、介護施設などとの情報共有や連携を深め、スムーズな退院や転院を行うことで、多くの患者さんに高度な治療や急性期の医療を提供しています。その結果、患者さんの入院期間は短いものとなりますが、安定した経営の観点からもこのような施策に沿った病院運営は必須となります。また、医療職にも働き方改革の波が押し寄せています。特に医師は急性期の患者さんを抱えると長時間労働になりがちです。そこで、少しでも長時間労働を軽減する目的で、患者さんやご家族への病状説明等も可能な限り勤務時間内に行うこと、担当医を複数として診察や説明を行う取組みを病院として進めております。県民の皆様におかれましても当院の状況を理解いただき、何卒ご協力をお願い申し上げます。



診療科紹介 呼吸器外科

呼吸器外科では主に肺疾患を扱っています。中でも最も多く扱う疾患が肺がんで、2019年の肺がん手術数は四国で2番目の手術数だったようです(出典：『手術数でわかるいい病院 2021』週刊朝日MOOK)。近年は新型コロナウイルス感染症のために診療制限を行った影響で手術数は減少していますが、肺がん治療こそが私たちの診療の中心を占めています。

また、以前は開胸手術が多かったのですが、最近では内視鏡手術(胸腔鏡手術)の割合が8割を占めるようになりました。近年はロボット支援下手術(ダヴィンチ手術)の割合も増加しています。開胸手術や通常の胸腔鏡手術とは全く勝手の違う手術ですが、電気メスによる微細な操作が可能という確かなメリットもある手術です。少しずつ手術手技の改良に努めています。



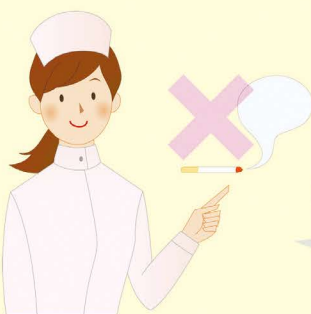
【ダヴィンチ手術の様子】



左写真のように3D画像を見ながら手元の操作することで、右写真のロボットアームを動かし、手術を行います。

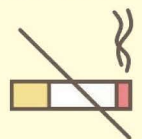


私たちは「安全で術後合併症の少ない診療」を心掛けることが最重要課題と考えています。当科医師2名はいずれも外科専門医、呼吸器外科専門医の資格を有しており、毎日話し合いを行いながら常に安全な手術を心掛けています。また、不安を抱えた患者さんが治療選択に悩まないよう、詳細な説明を行うよう努めています。



**ご自身の
体のために禁煙を
お願いします**

禁煙のすすめ



呼吸器外科では肺がんや気胸などの肺疾患の他に、縦隔腫瘍や胸部外傷などを扱います。喫煙習慣のある方も多いですが、喫煙は手術後の呼吸器合併症発症リスクを高めます。肺手術の際には事前の完全禁煙が必須です。

感染症内科・漢方内科所属の鶴田寛二と申します。出身は愛知県ですが、自治医科大学を卒業後ご縁あり2012年より愛媛県で働いています。西予市や愛南町、伊方町で地域医療に従事した後、2021年4月より当院にて感染症内科と週1回漢方内科の外来に携わっています。多岐にわたる診療科の感染症患者さんの問診・診察をしたり顕微鏡を覗いたりすることで原因（細菌、ウイルス、カビ）や治療薬を検討し、一方で漢方内科では最近注目されている新型コロナウイルス感染症の後遺症に対して、東洋医学的アプローチで症状の改善を図っています。

私生活では家族と県内の山や島など豊かな自然をめぐりリフレッシュしています。将来は小さな畑を持ち家庭菜園ができればと夢見ています。



▲顕微鏡を覗き、症状の原因を探ります



▲漢方の標本をバックに

疑問を解決!

県中 Q & A

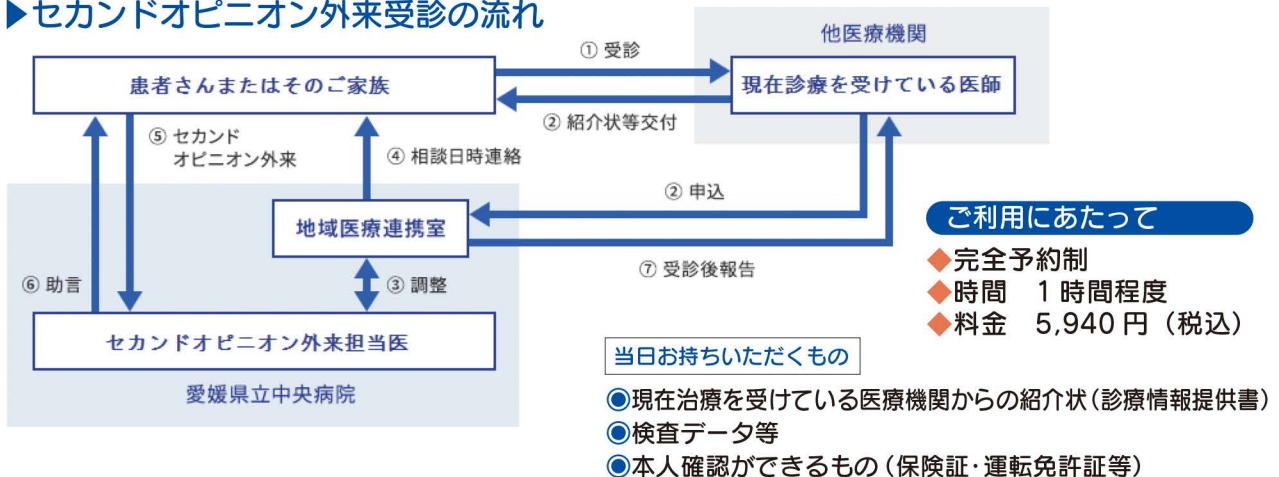


Q. 現在治療を受けている担当医以外の医師の意見を聞いてみたい

A. 当院でもセカンドオピニオン外来を受けることができます。

現在、どちらかの医療機関にかかっている患者さん、またはご家族が、今の診断や治療方針について、当院の医師に話を聞くことができる「セカンドオピニオン外来」を開設しています。話を聞くことで、病気や治療に対する理解が深まり、患者さん自身がより納得して治療に臨むことに繋がります。当院のセカンドオピニオン外来のご希望がございましたら、地域医療連携室にご相談ください。

▶セカンドオピニオン外来受診の流れ



(お問い合わせ) 愛媛県立中央病院 地域医療連携室 TEL089-947-1111(代)

当院の研修医を紹介します

1年次研修医 ^{ひの}日野 ^{はなこ}華子・^{さちこ}祥子医師

Resident

twins

仕事以外の過ごし方を教えてください。

華子：趣味は旅行です。コロナの影響もあり最近あまり行けていませんが、土日に休みが取れると県外に行きます。最近是有馬温泉に行きました。海外も好きで大学時代は1年間休学してトロントに住んでいました。野球観戦も好きです。トロントではMLBのブルージェイズの試合も見に行きました。プロ野球はジャイアンツファンでシーズン中は父とテレビ観戦しています。

祥子：私も旅行は好きですが、休日は家で過ごすことが多いです。疲れが溜まったときは実家に帰り、飼い猫たちに癒やしてもらっています。新入りのこぐまちゃんがお気に入りです。ツキノワグマのような白い模様があるのが名前の由来です。最近は暖かい日があれば、おばあちゃん猫のお散歩に付き合ったりもしています。それ以外には、同期とカラオケに行ったり、ごはんを食べに行ったりしてリフレッシュしています。

長所は？

華子：好奇心旺盛なところですね。人間観察も好きなので、指導医の動きも見逃さず、たくさんのお話を学ばせていただいています。患者さんの少しの変化にもすぐに気づけるよう長所を活かしたいです。

祥子：献身的、人懐っこいとよく言われます。患者さん一人一人に寄り添い、不安を少しでも和らげることができたら嬉しいです。

今後の目標は何ですか？

華子：私は内科系を志望しています。日々の研修の中で自分の知識不足を痛感しています。研修もあと少しで半分というところに来ましたが、時間を無駄にしないように、たくさんのお話を吸収して実りある1年にしたいです。専攻医になる頃には患者さんから頼られる医師になれるように頑張ります。

祥子：私は将来の志望科がまだ決まっていないので、研修をしつつ自分に合った診療科を選びたいです。研修医でしか診療科をいろいろ回ることにはできないので、この2年間に様々なことに挑戦し、経験を積んでいきたいです。



▲双子共々よろしくお願いします！



▲石垣島の海でダイビング



▲同期と野球観戦に行きました



▲同期の誕生日を一緒にお祝いしました



▲愛猫のこぐまちゃん

おまけ

2人の見分け方はありますか？

院内では、髪型で区別してもらっています。華子はお団子、祥子はポニーテールにしています。靴の色も変えていて、華子は白、祥子は黒です。

2人について

小中高と同じ学校に通っていましたが別々の大学に進学し、就職でまた一緒になりお互いに切磋琢磨しながら研修しています。今後も姉妹として、同期として助け合いながら成長していけたらと思います。

病院のお仕事 外来化学療法室

がん治療の3つの柱は手術治療・放射線治療・薬物治療です。がんに対する薬物療法(化学療法)は近年進歩を遂げ、新規薬剤の開発や副作用の軽減方法の進歩により、外来でも安全に薬物治療が受けられるようになってきました。当院でも2005年1月に外来化学療法室が開設され、治療を受けられる患者さんやご家族の方が、安全で安心な治療を快適に受けただけられるよう、スタッフ一同協力して取り組んでおります。なお、化学療法は各診療科での診察後、実施の可否が決定します。各診療科の診察後、案内があった際にご来室ください。

当室ではスタッフ一同、安全に治療が受けただけられるよう、声出し・指さし・複数人での確認を徹底して行っています。また待ち時間を最小限にし、快適に過ごせるよう、治療時間内に必要なケアについての紹介や説明などを行っています。



外来化学療法室 スタッフ

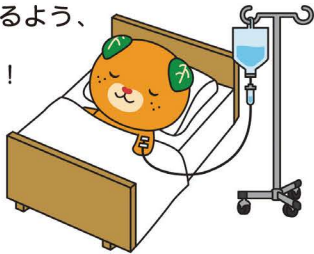
外来化学療法室長
吉山医師

西崎看護長

外来化学療法専任医師
佐竹医師

安全管理

安心して治療を受けてもらえるよう、入念に確認を行っています！



▲看護師2名で薬剤のダブルチェックをします



▲点滴が正確に入っているか医師と確認します

案内しているケアの一例



●ウィッグの試着

希望があれば、展示している医療用ウィッグの試着ができます



●ポート管理の練習

自宅で安全に抜針できるよう、患者さんに抜針の練習をしてもらっています



●爪障害のケア

爪障害のある患者さんには、爪の保護やネイルケアの紹介をしています

抗がん剤治療と聞くと、「抗がん剤を使用したら、吐き気でご飯が食べられなくなるの?」「髪の毛が抜けたらどうしたらいい?」といった不安を抱かれる方も多いのではないのでしょうか。患者さん・ご家族の方の苦痛となっていることや気がかりになっていることについては、主治医や外来診療科看護師にお尋ねください。使用する薬剤により副作用はさまざまですが、個々にあったケアや対処方法を一緒に考え支援していきます。各診療科とも連携を取り、必要なケアについてご案内させていただきます。

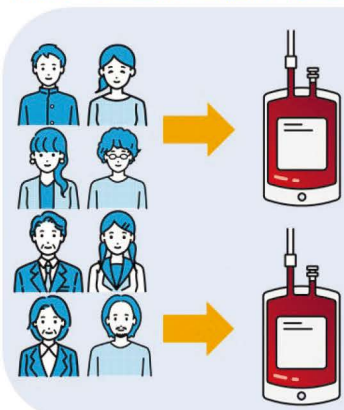
ご希望やご意見などがございましたら、お声がけください。



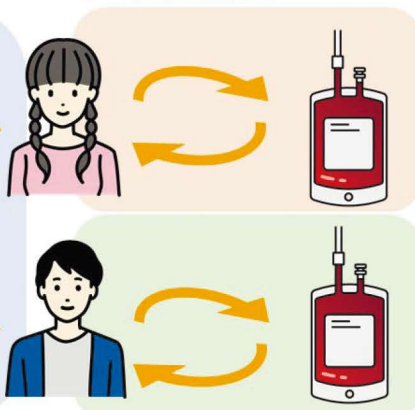
輸血には、献血された他人の血液を使う輸血（同種血輸血）と、あらかじめ自分の血液をためておいて（自己血貯血）使う輸血（自己血輸血）があります。同種血輸血では、①妊娠や輸血によって作られた抗体が原因で生じる発熱、蕁麻疹（じんましん）、②日本人に多い輸血後移植片対宿主病（輸血後 GVHD）、③肝炎、エイズなどの輸血感染症などが問題となりますが、自分の血液を使う自己血輸血では前述①～③の危険がありません。当院では主に産婦人科、整形外科で自己血貯血を行っています（ただし、貯血時に血管迷走神経反応などの有害事象が起こることもあります）。

輸血の目的は血液中の重要な成分が減少したときや機能が低下したときに、その成分を補充し臨床症状の改善を図ることにありますが、血液成分を体内に入れる移植の1つであるため、危険性と効果を十分に考えて安全かつ適正に実施される必要があります。そのため当院輸血部では、様々な輸血用製剤を出来るだけ早く安全に提供できるように24時間体制で診療を支援しています。

【他人の血液を使う輸血】



【自己血輸血】



十分な検査を行っていますが、ときに副作用が起こる可能性があります。自分の血液を使うため、感染症やGVHDの危険はありません。

感染症

肝炎・エイズなど

GVHD

(移植片対宿主病)

- 予想以上の出血があった場合には、他人の血液を輸血する場合があります。
- 予想より出血が少なかった場合には、使用しなかった自己血は廃棄されます。
- 「手術までの期間が短い」、「高度の貧血」などの理由で自己血貯血ができないこともあります。



当院広報誌「小春日和」の感想・意見をお聞かせください！

今月号の広報誌をお読みいただきありがとうございます。より親しみがあり、役に立つ広報誌作成のため、簡単なアンケートを実施しています。また「疑問を解決！泉中 Q&A」で答えてほしい質問も募集していますので、ぜひご回答ください。

アンケートの
回答は
こちらから



転入・転出医師 (2022.12.1～2023.3.15)

▶
転入

所属	氏名	専門
産婦人科	山内 雄策	専攻医
総合診療科	川崎 美智子	専攻医

▶
転出

所属	氏名
麻酔科	相原 法昌
麻酔科	品川 育代
産婦人科	行本 志門
産婦人科	井上 奈美
心臓血管外科	山形 顕子

連携医療機関紹介 ～第29回～

医療法人 たかおか眼科・内科クリニック

- 所在地 松山市竹原2丁目1-50
- TEL 089-921-7000 ■FAX 089-921-7088
- 診療科目 眼科・内科
- 外来診療時間 休診日 木曜午後・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
14:30～18:00	○	○	○	×	○	○ <small>眼科のみ 17:00まで</small>	×

※眼科の受付は診療終了時間の30分前まで

【病院の概要】 2015年4月に開院しました。伊予鉄バスの竹原中組バス停から徒歩約1分、伊予鉄郡中線の土橋駅から徒歩約8分の場所にあります。駐車場は約10台です。スタッフは医師2名、看護師5名、検査・医療事務6名です。

【病院の特徴】 眼科と内科の連携を活かし、生活習慣病等の早期発見、早期治療を目指しています。眼科と内科両方を受診出来るので、両科にかかる方の通院の負担は軽減されるのではないかと考えています。当院ではWeb予約・問診を取り入れており、事前に症状や希望を入力することでそれを踏まえた診療ができるため、院内滞在時間の短縮に繋がります。また内科の再診患者さんを対象に、オンライン診療も行っており、定期的な通院が必要な場合や、発熱症状がある場合にも利用が可能です。時間が許す限り、しっかりお話を聞くこと、病状等の説明も丁寧なことを心がけており、些細なことでも相談することができるクリニックを目指しています。



加賀田小児科

- 所在地 松山市古川北1丁目21-30
- TEL 089-957-0012
- 診療科目 小児科・アレルギー科
- 外来診療時間 休診日 日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00～18:00	○	○	○	○	○	△ <small>14:00～ 16:00</small>	×

※火・水・木 14:00～15:00 予防接種・健診外来(予約制) ※月・金の午後はアレルギー科は休診

【病院の概要】 2022年5月に旧医院の隣地に新たに開院しました。Web予約可能、21台分の広い駐車場を用意しています。非常勤医含め、医師3名で診療を行っています。

【病院の特徴】 予防接種、健診、風邪、便秘、夜尿などの診察、離乳食の進め方や夜泣きなど子育てで不安なことはなんでもお気軽にご相談ください。また、小児科専門医に加え、アレルギー専門医、腎臓専門医がおり、アレルギー診療では湿疹のスキンケア指導、食物経口負荷試験、喘息の長期管理、呼吸機能検査、アレルギー性鼻炎の舌下免疫療法に力を入れています。スタッフ皆で相談しやすい雰囲気作りを心掛け、お子さん、ご家族が安心して元気に笑顔で過ごせるお手伝いができるクリニックを目指しています。



当院は、2010年10月29日に「地域医療支援病院」の承認を受けています。このコーナーでは、紹介・逆紹介によって連携している医療機関を随時ご紹介させていただきます。(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

